

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
09:00			C201 ○岩田 大介 ¹ ・石本 万寿広 ¹ (新潟農総研作研) 透明コーン型のフェロモントラップを用いたウコンノメイガのモニタリングと被害予測		
09:15		B202 ○河野 勝行 ¹ ・飯田 博之 ¹ ・豊島 真吾 ¹ (農研機構野菜花き研究部門) 同一地域内のウリ科果菜類と他の植物の間の訪花昆虫相の比較	C202 ○渋谷 和樹 ¹ ・遠藤 信幸 ¹ ・竹内 博昭 ¹ (農研機構 中央農業研究センター) ウコンノメイガの捕獲にはトラップ内部への光(UV)の透過が重要である	D202 ○山本 敦司 ^{1,3} ・土井 誠 ^{2,3} (日本曹達(株)・静岡農技研・農林害虫研・抵抗性対策TF) 殺虫剤抵抗性リスク評価表:そのリスク評価基準の考え方	E202 ○長峯 啓佑 ¹ ・林 正幸 ² ・陰山 大輔 ¹ (農研機構・生物研 ² ・農研機構・西農研) カオマダラクサカゲロウにおけるオス殺し抵抗性の拡散推移
09:30		B203 ○加茂 綱嗣 ¹ ・日下 石碧 ¹ ・田中 義弘 ² ・岸 茂樹 ³ (農研機構農環研 ² ・鹿児島農総セ ³ ・農研機構農情研) 鹿児島県のカボチャ抑制栽培におけるミツバチとマルハナバチの送粉効率	C203 ○北田 真之 ¹ ・金田 昌士 ¹ ・佐々木 幹了 ¹ (横浜植防) ミカンコミバエを対象とした寄主植物調査で発見されるミバエ科幼虫の識別	D203 ○山村 光司 ¹ ・須藤 正彬 ¹ ・園田 昌司 ² ・山中 武彦 ¹ (農研機構・宇都宮大学) 薬剤抵抗性遺伝子の比率をトラップ捕獲虫の混合物から推定する統計手法	E203 ○陰山 大輔 ¹ ・成田 聡子 ¹ ・宮田 真衣 ² ・小長谷 達郎 ³ ・安部 淳 ⁴ ・野村 昌史 ² (農研機構・生物機能 ² ・千葉大院・応用昆虫 ³ ・基生研・進化発生 ⁴ ・明治学院大・教養) 性比異常を起こす共生細菌ボルバキアが宿主集団に与える影響:種子島におけるキタキチヨウの事例
09:45	A204 ○田崎 英祐 ^{1,2} ・駒形 泰之 ¹ ・稲垣 辰哉 ¹ ・井内 良仁 ² ・松浦 健二 ¹ (京都大学 昆虫生態学研究室 ² ・山口大学大学院 創成科学研究科) Hypoxia enhances survival and reproductive activity in termite royals	B204 ○熊野 了州 ¹ ・岡田 珠緒 ¹ (帯広畜産大学 昆虫生態) マルハナバチ類のカボチャへの訪花と花粉の媒介	C204 ○本間 淳 ^{1,2,3} ・安藤 さやか ¹ ・日室 千尋 ^{1,2,3} ・池川 雄亮 ^{1,2,3} ・原口 大 ¹ (沖縄県病害虫防除技術センター ² ・琉球産経株式会社 ³ ・琉球大学) 沖縄県に侵入したミカンコミバエ種群の外部形態およびDNA配列による種同定	D204 ○森下 正彦 ¹ (和歌山県海南市) 薬剤抵抗性発達を抑制する生態学的要因としての保護区(野生寄主)	E204 ○宮田 真衣 ¹ ・野村 昌史 ¹ ・陰山 大輔 ² (千葉大院・応用昆虫 ² ・農研機構・生物機能) 石垣島におけるミナキチヨウの性比と共生細菌 <i>Wolbachia</i> との関係
10:00	A205 ○野崎 友成 ^{1,2} ・松浦 健二 ² (基礎生物学研究所 ² ・京都大学 農学研究科) Oocyte resorption in termite queens and a method of controlling the work-in-process inventory in their egg factory	B205 ○山本 隼佑 ¹ ・澤村 信生 ¹ (島根県農業技術センター) 島根県におけるカキの訪花昆虫の種類と訪花時間	C205 ○中 秀司 ¹ ・福田 侑記 ² ・奥谷 恭代 ² ・対馬 佑介 ³ ・橋詰 遼 ¹ (鳥取大・農 ² ・鳥取農試 ³ ・青森農林総研) 鳥取県のダイズ畑におけるマメシンクイガ被害発生要因の解析:4年間のまとめ	D205 ○園田 昌司 ¹ ・上樂 明也 ³ ・桑崎 誠剛 ³ ・宮本 和久 ³ ・内山 誠 ² ・黒川 竜紀 ² ・森 恵美子 ² ・森 誠之 ² ・森 泰生 ² (宇都宮大学 農学部 ² ・京都大学 工学研究科 ³ ・農研機構・生物機能) コナガのシアントラニリブロール抵抗性機構について	E205 ○大手 学 ^{1,2} ・嘉糠 洋陸 ^{1,2} (慈恵医大・熱帯医学 ² ・慈恵医大・衛生動物セ) ボルバキアと宿主由来の母性RNA結合因子による Dengue ウイルスの制御
10:15	A206 ○稲垣 辰哉 ¹ ・柳原 早希 ¹ ・瀧側 太郎 ² ・松浦 健二 ¹ (京大院・農・昆虫生態 ² ・大阪市立大・院理・情報生物) Gut microbial pulse provides nutrition for parental provisioning to larvae in incipient termite colonies	B206 ○千秋 祐也 ¹ ・櫻井 民人 ² ・久保田 健嗣 ² ・伊藤 隆男 ¹ (農研機構果茶研 ² ・農研機構中央農研) アブラムシ5種のブドウファバウイルス保毒虫率	C206 ○竹内 博昭 ¹ ・遠藤 信幸 ¹ ・渋谷 和樹 ¹ (農研機構中央農研) 2019年に上越地域でマメシンクイガ羽化時期が遅延した要因	D206 ○伊藤 悠佑 ¹ ・下間 (井尻) 悠士 ^{1,2} ・上樂 明也 ³ ・平田 晃一 ⁴ ・Van Leeuwen Thomas ⁵ ・刑部 正博 ¹ (京大院農 ² ・道総研 ³ ・農研機構生物機能 ⁴ ・日本曹達 ⁵ ・Ghent, Univ) 作用点変異と代謝との相互作用によるナミハダニのピリダベン高度抵抗性	E206 ○吉田 一貴 ^{1,2} ・真田 幸代 ³ ・徳田 誠 ² (鹿児島大院・連合農学 ² ・佐賀大学 農学部 ³ ・農研機構・九州沖縄農研) 細胞質不和合(CI)を救済できなくなったボルバキア?
10:30	A207 ○WU, Yao ¹ (Kyoto University) Queens in conflict: clonal drive in secondary queen population of AQS termite	B207 ○矢野 修一 ¹ ・小西 麻結 ² ・秋野 順治 ² (京大院農・生態情報 ² ・京都工芸繊維大学) ハダニはアリの歩行跡を避ける	C207 ○西野 実 ¹ ・笹山 哲央 ¹ ・田中 千晴 ¹ ・遠藤 信幸 ² ・本田 善之 ³ ・岩本 哲弥 ³ (三重県農業研究所 ² ・農研機構中央農研 ³ ・山口県農林総合技術センター) 三重県におけるトラップを利用したダイズのカメムシ類の被害予測技術の開発	D207 杉本 直也 ^{1,2} ・高橋 彰央 ¹ ・伊原 嶺 ¹ ・伊藤 悠佑 ¹ ・上樂 明也 ³ ・Van Leeuwen Thomas ⁴ ・刑部 正博 ¹ (京大院農 ² ・往友化学 ³ ・農研機構生物機能 ⁴ ・Ghent Univ) QTL分析によりミトコンドリア電子伝達系複合体III阻害剤3剤に対するナミハダニの高度抵抗性系統から見つかったSDHサブユニットの変異	E207 ○古賀 隆一 ¹ ・森山 実 ^{1,2} ・高井 嘉樹 ¹ ・深津 武馬 ¹ (国立研究開発法人 産業技術総合研究所 生物プロセス研究部門 ² ・国立研究開発法人 産業技術総合研究所(CBDD-OIL) 必須共生細菌進化の第一歩を同定する~自由生活性細菌が昆虫必須共生細菌へと進化する時、彼らのゲノムに何が起きたのだろうか?)

F会場	G会場	H会場	I会場	J会場	
F201 ○明石 遙 ¹ ・朝日 冨佳 ¹ ・齊藤 準 ¹ (京工繊大・応生) オオスカシバ成虫の雌蛾における産卵特性	G201 ○大江 高穂 ¹ ・関根 崇行 ¹ ・駒形 泰之 ³ ・小野寺 隆一 ² ・阿部 翔太 ² ・高梨 琢磨 ³ ・柴田 健吾 ⁴ ・小池 卓二 ⁴ (宮城農園研・ ² 東北特殊鋼(株)・ ³ 森林総研・ ⁴ 電通大) 施設栽培トマトにおける振動を用いたオンシツコナジラミの防除と受粉促進	H201 ○城田 安幸 ¹ (医果同源性んご機能研究所) 無農薬りんご園の害虫管理(16) アナグマ、ツキノワグマ、テンなどの加害	I201 ○中野 昭雄 ¹ ・森 光太郎 ² ・大朝 真喜子 ² ・東田 景太 ³ ・中島 哲男 ⁴ (徳島農総技セ・ ² 石原産業(株)・ ³ 石原バイオサイエンス(株)・ ⁴ JA全農) ナス苗への天敵保護装置バンカーシート®を利用したスワルスキーカブリダニ放飼による同ダニの定着性と微小害虫に対する防除効果	J201 ○朝倉 将斗 ¹ ・窪田 聖一 ¹ ・矢野 貴大 ¹ (愛媛県農林水産研究所) マルチローターによる水稲病害虫防除効果と薬剤付着	09:00
F202 ○三浦 一芸 ¹ ・松村 健太郎 ² ・宮竹 貴久 ² (農研機構・西日本農研センター・ ² 岡山大院・環境生命) 行動形質に変異の見られるコクヌストモドキの同一集団での遺伝的構造	G202 ○衣浦 晴生 ¹ ・高梨 琢磨 ² ・金子 修治 ³ ・山本 優一 ³ ・田山 巖 ⁴ (森林総合研究所関西支所・ ² 森林総合研究所・ ³ 大阪府立環境農林水産総合研究所・ ⁴ 東北特殊鋼(株)) 振動を用いたクビアカツヤカミキリの行動制御とそれによる防除の可能性	H202 ○池上 真木彦 ¹ (国立環境研究所) 昆虫類を中心とした外来生物の侵入および分布拡大経路分析	I202 ○大朝 真喜子 ¹ ・中島 哲男 ² ・吉村 勝彦 ² ・西濱 健太郎 ³ ・星野 滋 ³ (石原産業・ ² 石原バイオサイエンス・ ³ 広島総研農技セ) 夏秋イチゴでのミヤコバンカーとアカメによるハダニとアザミウマの防除	J202 ○内山 徹 ¹ ・吉田 達也 ¹ (静岡茶研センター) クワシロカイガラムシのピリプロキシフェン剤感受性と乗用型防除機による効果的な薬剤散布方法	09:15
F203 ○宮崎 智史 ¹ ・山口 勝司 ² ・重信 秀治 ² (玉川大院・農・ ² 基生研・生物機能) 有翅女王と無翅女王を有するカドフシアリを対象としたRAD-seqによる集団遺伝学的解析	G203 ○中西 友章 ¹ ・中野 昭雄 ¹ (徳島県立農林水産総合技術支援センター) モモの切枝を用いたクビアカツヤカミキリ若齢幼虫に対する薬剤効果試験	H203 ○橋本 佳明 ¹ ・坂本 洋典 ² ・浅井 ひろみ ³ ・八十島 将充 ⁴ ・林 暉閃 ⁵ ・五箇 公一 ² (兵庫県立大学/兵庫県立人と自然の博物館・ ² 国立環境研究所・ ³ 株式会社PRD・ ⁴ もりや産業・ ⁵ 蒙斯特農研) わさびVSヒアリ:マイクロカプセル化AITCのヒアリ忌避と燻蒸効果	I203 ○田中 雅也 ¹ ・八瀬 順也 ¹ ・神頭 武嗣 ¹ ・富原 工弥 ¹ ・刑部 正博 ² (兵庫農技総セ・ ² 京大院農・生態情報) UVB照射-反射システム(UV法)における天敵カブリダニ活動性の評価	J203 ○青木 由美 ¹ ・黒田 貴仁 ¹ (富山農総技セ) 富山県におけるネギハモグリバエの薬剤防除適期および殺虫剤感受性	09:30
F204 ○池主 格 ¹ ・宮崎 智史 ¹ (玉川大院・農) フタホシコオロギのオスの求愛行動におけるfruitlessとtransformer2の役割	G204 ○上地 奈美 ¹ ・三代 浩二 ¹ (農研機構・果樹茶部門) 果樹13樹種とサクラ類2樹種の切り枝に対するクビアカツヤカミキリ雌成虫の産卵嗜好性	H204 ○松尾 和典 ¹ (九大院比文) 畜産害虫サシバエの寄生蜂発見とその意義	I204 ○YUAN Lifeng ¹ ・森 信之介 ¹ ・春山 直人 ² ・平井 伸博 ¹ ・刑部 正博 ¹ (京都大学農学研究科・ ² 栃木県農業試験場) Enhancement of UVB resistance in phytoseiid mite via strawberry pollen diet	J204 ○金子 政夫 ¹ ・岩田 直樹 ¹ (長野県野菜花き試験場) 長野県におけるネギハモグリバエ別系統の発生状況と薬剤による防除効果	09:45
F205 ○澤田 功司 ¹ ・志賀 向子 ¹ (大阪大学・院・理) クロコガネ属の概日リズムを持つ種と概倍日リズムを持つ種における摂食と生殖の比較	G205 ○小林 正秀 ¹ (京都府森林技術センター) トラップとシート被覆を組み合わせたナラ枯れ防除法	H205 ○上杉 龍士 ¹ ・田淵 研一 ¹ ・小西(降幡) 令子 ¹ ・吉村 英翔 ¹ (農研機構・東北農研) 北日本でのキャベツのオオムギリビングマルチ栽培における害虫抑制要因	I205 ○上村 香菜子 ¹ ・松本 幸子 ¹ (福岡県農林業総合試験場) 施設バラのナミハダニに対する効果的なカブリダニ類利用法とIPMの展望	J205 ○藤井 聡子 ¹ ・森戸 梓 ¹ ・加嶋 崇之 ¹ ・武田 千秋 ¹ ・森 光太郎 ¹ ・佐野 真喜子 ¹ (石原産業株式会社) 新規殺虫剤シクラニリプロールに関する研究(第8報)-果樹カメムシ類に対する防除効果-	10:00
F206 ○岡田 龍一 ¹ ・山崎 理正 ² ・伊東 康人 ³ (神戸大学理学部生物学科・ ² 京都大学農学部・ ³ 兵庫県立農林水産技術総合センター) カシノナガキクイムシの嗅覚1次中枢の構造と集合フェロモンに対する応答	G206 ○宮竹 貴久 ¹ (岡山大学・農学部) なぜ誘引源に害虫個体のすべてが集まらないのか?:一仮説の検証	H206 ○関根 崇行 ¹ ・大江 高穂 ¹ ・駒形 泰之 ¹ ・大坂 正明 ¹ ・安部 順一郎 ² (宮城農園研・ ² 農研機構西日本農研) 二次植物を用いたタマネギとキャベツの土着天敵利用の検討	I206 ○守屋 伸生 ¹ ・秋田 愛子 ² (沖縄県農業研究センター名護支所・ ² 沖縄県農業研究センター) スワルスキーカブリダニバック製剤のマンガー花穂への一部直接放飼がスワルスキーカブリダニの定着とチャノキイロアザミウマの防除効果に与える影響	J206 ○森下 祥 ¹ ・福地 俊樹 ¹ (アグロ カネショウ株式会社) 新規殺虫剤テトラニリプロールに関する研究4~灌注処理剤としての生物学的特性~	10:15
F207 ○日室 千尋 ^{1,2,3} ・本間 淳 ^{1,2,3} ・池川 雄亮 ^{1,2,3} ・熊野 了州 ⁴ (沖縄県病害虫防除技術センター・ ² 琉球産経(株)・ ³ 琉球大学農学部・ ⁴ 帯広畜産大学) イモゾウムシ雌の交尾間隔、実は雌が決めている!?	G207 ○嘉数 若子 ¹ ・新垣 則雄 ¹ ・玉城 由美子 ¹ ・内藤 尚之 ² (沖縄農研セ・ ² 信越化学工業(株)) サトウキビの害虫カンシャシクイハマキの交信かく乱法による交信かく乱効果の検討	H207 ○大坂 正明 ¹ ・関根 崇行 ¹ ・板橋 建 ¹ ・千葉 直樹 ¹ ・上杉 龍士 ² ・田淵 研二 ¹ (宮城農園研・ ² 農研機構東北農研) タマネギ栽培ほ場における土着天敵としてのヒラタアブ類の害虫捕食	I207 ○山口 晃一 ¹ ・森 光太郎 ¹ (石原産業株式会社) 飽差および絶対湿度のミヤコカブリダニへの影響	J207 ○深津 浩介 ¹ ・中野 元文 ¹ ・青木 隆夫 ¹ ・八木川 伯朗 ¹ ・佐藤 英孝 ¹ (日本農業株式会社) 新規ウンカ防除剤ベンズピリモキサン(オーケストラ®)に関する研究(第4報)ーウンカ類に対する作用特性ー	10:30

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
10:45	A208 ○白井 雄 ¹ ・大出 高弘 ¹ ・大門 高明 ¹ (¹ 京都大学大学院農学研究科) Targeted gene disruption by receptor-mediated ovary transduction (ReMOT) in the red flour beetle, <i>Tribolium castaneum</i>	B208 ○藤家 梓 ¹ ・Ugyen DORJ ² ・湯浅 一充 ³ (¹ 元IHPP・ ² ARDC-Bajo・ ³ IHPP) プータンにおける園芸作物害虫	C208 ○田中 千晴 ¹ ・笹山 哲夫 ¹ ・西野 実 ¹ ・小谷 弘哉 ² ・近藤 和夫 ² (¹ 三重県農業研究所・ ² 九鬼産業株式会社) ミナミアオカメムシの加害がゴマの収量および成分品質に及ぼす影響	D208 ○山口 貴大 ¹ ・小林 甫 ² (¹ 奈良農研セ・ ² 奈良北農林) 奈良県の促成イチゴ栽培で発生するヒラズハナアザミウマに対する各種殺虫剤の殺虫効果	E208 ○上田 雅俊 ¹ ・新井 大 ¹ ・平野 達也 ¹ ・秋月 直也 ¹ ・仲井 まどか ¹ ・井上 真紀 ¹ (¹ 農工大院・農) チャハマキに共感染する3株の <i>Wolbachia</i> が宿主の適応度に与える影響
11:00	A209 ○黒木 祥友 ¹ ・井村 英輔 ¹ ・溝口 明 ² ・近藤 周 ³ ・谷本 拓 ⁴ ・丹羽 隆介 ⁵ (¹ 筑波大・院生命環境・ ² 愛知学院大・教養・ ³ NIG・ ⁴ 東北大・院生命・ ⁵ 筑波大・TARAセ) Neuronal control of reproduction dormancy under a cold condition in the fruit fly <i>Drosophila melanogaster</i>	B209 ○水谷 信夫 ¹ (¹ 農研機構九州沖縄農業研究センター) オクラにおけるミナミアオカメムシとアオクサカメムシの発生消長	C209 ○星野 滋 ¹ ・亀井 幹夫 ¹ ・西濱 健太郎 ¹ (¹ 広島県立総合技術研究所農業技術センター) 広島県における2019年のトビイロウンカ多発要因の解析	D209 ○林 真弓 ¹ ・中野 昭雄 ¹ (¹ 徳島農総技セ) ミナミキイロアザミウマの簡易薬剤感受性検定キットの開発(1) 処理条件と各薬剤別の精度の検討	E209 ○杉本 貴史 ¹ ・粥川 琢己 ¹ ・渡邊 和代 ¹ ・松尾 隆嗣 ² ・石川 幸男 ² ・陰山 大輔 ¹ (¹ 農研機構・生物機能・ ² 東大院・農・応用昆虫) オス殺しボルバキアが宿主アズキノメイガの遺伝子発現に与える影響の解析
11:15	A210 ○阿部 真生子 ¹ ・渡辺 佳織 ² ・服部 佑佳子 ² ・上村 匡 ^{2,4} ・丹羽 隆介 ^{3,4} (¹ 筑波大・生物・ ² 京大・院生命・ ³ 筑波大・TARAセ・ ⁴ AMED-CREST, AMED) Genetic and nutritional factors affecting high sugar tolerance in <i>Drosophila</i>	B210 ○嶋田 正和 ¹ ・長瀬 泰子 ¹ ・大林 夏湖 ¹ ・徳永 幸彦 ² (¹ 東大・総合文化・広域・ ² 筑波大・生命環境) 中国産アズキノウムシと日本産との交雑による有性生殖の多様性促進効果	C210 ○平江 雅宏 ¹ ・石崎 摩美 ¹ ・石島 力 ¹ (¹ 農研機構 中央農業研究センター) イチモンジセセリ発生調査法の再検討	D210 ○窪田 直也 ¹ ・高木 素紀 ¹ ・上樂 明也 ² ・桑崎 誠剛 ² ・小河原 孝司 ¹ (¹ 茨城県農業総合センター園芸研究所・ ² 農研機構生物機能部門) 茨城県のネギアザミウマに対する散布薬剤とスピノシン系抵抗性遺伝子頻度の推移の関係	E210 ○高野 俊一郎 ¹ ・Dat Nguen ¹ (¹ 九州大学大学院農学研究科) ベトナムにおける侵入害虫キムネクロナガハムシに感染する新規ボルバキア様細菌の分布とC能力
11:30	A211 ○新井 大 ¹ ・安佛 尚志 ^{2,3} ・西川 洋平 ^{2,4} ・竹山 春子 ^{2,4} ・Lin Shiou-Ruei ⁵ ・上田 雅俊 ¹ ・仲井 まどか ¹ ・国見 裕久 ¹ ・井上 真紀 ¹ (¹ 農工大院・農・ ² 産総研・早大OIL・ ³ 産総研・生物プロセス・ ⁴ 早大・先進理工・ ⁵ 台湾茶業改良所) Effects of host and <i>Wolbachia</i> genotype on male-killing in <i>Homona magnanima</i>	B211 ○星崎 杉彦 ¹ (¹ 東大 農学生命科学) 体サイズの性差を作るのは、成長期間の違いか、成長速度の違いか？	C211 ○桐谷 幸生 ¹ ・永井 潤子 ¹ (¹ 三井化学アグロ株式会社) クモヘリカメムシ成虫による「しいな」 利率とわれ利率の関係	D211 ○笹山 哲央 ¹ ・田口 裕美 ² ・田中 千晴 ¹ ・西野 実 ¹ (¹ 三重県農業研究所・ ² 三重県病害虫防除所) 三重県におけるネギアザミウマの産雄性単為生殖と殺虫剤感受性の関係	E211 ○森山 実 ^{1,2} ・林 俊成 ¹ ・深津 武馬 ¹ (¹ 産総研・生物プロセス・ ² 産総研・CBBD-OIL) 共生細菌の垂直伝達を担うカメムシ中腸共生器官の構造と機能

F会場	G会場	H会場	I会場	J会場	
F208 ○長 泰行 ¹ (1千葉大院・応用昆虫) 捕食リスクに応じたミヤコカブリダニの托卵	G208 ○福田 健 ¹ ・松比良 邦彦 ¹ ・中田 恵久 ² ・北原 結花 ² (1鹿児島農総セ茶業部・2サンケイ化学(株)) 交信攪乱剤「コナガコンープラス」を用いたチャノホソガに対する効果	H208 ○金尾 健司 ¹ ・関根 崇行 ² ・中野 颯 ¹ ・堀 雅敏 ¹ (1東北大院農・2宮城農園研) キャベツ圃場における葉ダイコンリピングマルチを用いたタマナギンウワバの産卵抑制に関する研究	I208 ○吉崎 涼花 ¹ ・土井 誠 ¹ ・齊藤 千温 ¹ (1静岡農林技研) 温室メロンにおける土着カブリダニの薬剤感受性	J208 ○兼田 武典 ¹ ・中西 友章 ¹ ・阿部 成人 ² (1徳島県立農林水産総合技術支援センター 資源環境研究課・2国立大学法人徳島大学 社会産業理工学研究部) ピワキジラミ (<i>Cacopsylla biwa</i>) 卵に対する有効薬剤の探索	10:45
F209 ○Ghazy, Noureldin ¹ ・Takeda, Naoki ² ・Suzuki, Takeshi ¹ (1BASE, TUAT・2Fac. Agric., TUAT) Factors affecting the speed of locomotion in phytoseiid mites, <i>Neoseiulus californicus</i> and <i>Phytoseiulus persimilis</i>	G209 ○齊藤 美樹 ¹ (1道総研中央農試) 光照射によるコナガの行動変化	H209 ○駒形 泰之 ¹ ・大江 高徳 ¹ ・関根 崇行 ¹ (1宮城県農業・園芸総合研究所) 土着天敵のクモ類を温存するための除草と殺虫剤散布の処理順序	I209 ○大久保 敦史 ¹ ・鈴木 岳 ¹ ・児玉 聖一郎 ¹ (1日本化学(株)) フーモンの有用生物に対する影響	J209 ○佐々木 幹子 ¹ ・金田 昌士 ¹ ・北田 真之 ¹ (1横浜植物防疫所) ミカンコミバエ雌に対するモニタリング、防除資材の検討	11:00
F210 ○竹内 剛 ¹ ・藪田 慎司 ² ・高崎 浩幸 ³ (1大阪府大・生命環境・2帝京科学大・生命環境・3岡山理大・理学部) Absence of rival recognition causes territorial contests in the swallowtail <i>Papilio machaon</i>	G210 ○谷山 克也 ¹ ・堀 雅敏 ¹ (1東北大院・農) 青色光のヒトスジシマカに対する殺虫効果	H210 ○伊丹 春衣 ¹ ・菊原 賢次 ¹ ・清水 信孝 ¹ ・手柴 真弓 ¹ (1福岡県農林業総合試験場) カキにおけるフジコナカイガラムシと複数種チョウ目害虫の交信攪乱剤を利用した防除体系の効果	I210 ○下八川 裕司 ¹ ・米津 聡浩 ¹ ・原田 祐輔 ² ・西井 司 ³ ・田村 拓磨 ³ ・広瀬 拓也 ⁴ ・谷内 弘道 ⁵ ・中石 一英 ¹ (1高知農技セ・2高知須崎農振セ高南普及所・3JA高知県興津・4アリストライフサイエンス・5高知県農業イノベーション推進課) 天敵を利用した抑制作型施設ミョウガのハダニ類およびアザミウマ類防除	J210 ○原口 大 ¹ ・松山 隆志 ² ・本間 淳 ^{3,4} ・川津 一隆 ⁵ ・佐渡山 安常 ¹ (1沖縄防技セ・2沖縄農研セ・3琉球産経・4琉球大学・5東北大) 津堅島におけるアリモドキゾウムシ根絶防除-外部からの飛来侵入抑制の試み-	11:15
F211 ○香月 雅子 ¹ ・松尾 隆嗣 ² (1東大院・農・学振RPD・2東大院・農) 深層学習を用いた昆虫の闘争行動の自動検出	G211 ○弘中 満太郎 ¹ ・藤原 昌敬 ¹ ・笠井 柁希 ¹ ・島田 真彦 ¹ (1石川県立大・応用昆虫学) 人工光源に誘引された虫のその後：誘引光源下でみられたタガメの光行動抑制	H211 ○布山 佳浩 ¹ (1長野県南信農業試験場) 長野県におけるかぎのフジコナカイガラムシ越冬齢期と予測	I211 ○米津 聡浩 ¹ ・下八川 裕司 ¹ ・吉良 智絵 ² ・中石 一英 ¹ (1高知農技セ・2安芸農振セ) 施設栽培果菜類におけるナスコナカイガラムシの発生生態	J211 ○池川 雄亮 ^{1,2,3} ・伊藤 公一 ⁴ ・日室 千尋 ^{1,2,3} ・本間 淳 ^{1,2,3} (1琉球産経(株)・2沖防技センター・3琉球大学・4Univ. British Columbia) 雌雄の交尾相手選択性が不妊虫放飼法の防除効果に与える影響の数理モデル	11:30

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
15:15		B212 ○今野 浩太郎 ¹ (農研機構 生物機能利用研究部門) キヤベツがモンシロチョウから大被害を受ける理由—高い植食者比成長率と植物被害量増大・害虫化の関係	C212 ○東浦 祥光 ¹ ・河村 俊和 ¹ (山口県農林総合技術センター) 山口県における侵入初年のツマジロクサヨトウ発生状況	D212 ○井村 岳男 ¹ (奈良県農業研究開発センター) ダイコンハムシに対する各種殺虫剤の殺虫効果	E212 近野 真央 ¹ ・稲元 哲朗 ¹ ・深見 理 ² ・高橋 純一 ¹ (京産大・院・生命科・2スタンフォード大・生物) ニホンミツバチと酵母における共生関係の可能性について
15:30	A213 ○SAM Layheng ¹ ・Zhang Chi ¹ ・Takano Shun-ichiro ¹ ・Takasu Keiji ¹ (九州大学) Life history traits of the cassava mealybug and its parasitoid <i>Anagyrus lopezi</i>	B213 ○上田 明良 ¹ (森林総合研究所北海道支所) 腐肉食性甲虫による生態系サービスの伐採にともなう推定変化	C213 ○窪田 聖一 ¹ ・宮下 裕司 ² ・篠崎 毅 ² ・伊藤 博章 ² ・松崎 幸弘 ² ・井上 智絵 ² ・朝倉 将斗 ¹ (愛媛県農林水産研究所・2愛媛県病害虫防除所) 愛媛県におけるツマジロクサヨトウの発生状況と薬剤感受性	D213 ○田村 悠 ¹ ・中石 一英 ¹ ・武藤 美樹 ¹ (高知県農業技術センター) 高知県におけるシロイチモジヨトウに対する各種薬剤の殺虫効果	E213 ○末次 翔太 ¹ ・福田 光平 ² ・宮崎 亮 ^{1,3,4} (産総研・生物プロセス・2静岡大学・創造科学技術大学院・3産総研・CBBDOIL・4筑波大学・生命環境科学) セイヨウミツバチ腸内細菌叢における遺伝子水平伝播の動態の解析
15:45	A214 ○Zhang, Chi ^{1,2} ・Takano, Shunichiro ^{1,2} ・Takasu, Keiji ^{1,2} (University of Kyushu・2Grad School Biores Bioenv Sci) A PCR-based method for estimating parasitism rates in <i>Anagyrus lopezi</i> , a parasitoid of the cassava mealybug	B214 ○土田 浩治 ¹ ・平野 尊丸 ¹ ・岡本 朋子 ¹ (岐阜大学・応用生物科学部) 貿易は距離を凌駕する: オーストラリアに侵入したフタモンアシナガバチの遺伝学的評価	C214 ○須藤 正彬 ¹ ・佐藤 安志 ¹ ・萬屋 宏 ¹ (農研機構 茶病害虫U) ナガチャコガネ成虫密度推定のための簡易捕獲法	D214 ○石本 万寿広 ¹ ・岩田 大介 ¹ (新潟農総研・作物研) クロチアニジン、ジノテフラン低感受性アカヒゲホソミドリカスミカメの発生	E214 ○汪 亜暉 ¹ ・藤原 亜希子 ^{2,3} ・土田 努 ¹ (富山大学・2群馬大・食健康・3理研・CSRS) タバココナジラミ共生器官で発現する新規抗菌ペプチドの機能解析
16:00	A215 ○モヨ デビー ¹ ・石倉 鈴風 ¹ ・小池 正徳 ¹ ・クレイトン マーラー ² ・相内 大吾 ¹ (帯広畜産大学・環境微生物学研究室・2ウイスコンシン大学マディソン校) Behavioural change of <i>Bemisia tabaci</i> (Gennadius) and <i>Trialeurodes vaporariorum</i> (Westwood) (Hemiptera: Aleyrodidae) by entomopathogenic fungus	B215 ○長江 星八 ¹ ・Jans Morffe ² ・田辺 力 ³ ・長谷川 浩一 ¹ (中部大学・2Inst. Ecol. System., Cuba・3熊本大学) 進化的起源の異なる2種の寄生性線虫 <i>Rhigonema</i> spp. と <i>Travassosinema</i> spp. がヤスデ腸内に共生している	C215 ○山中 武彦 ¹ ・北林 聡 ² ・上樂 明也 ¹ ・須藤 正彬 ¹ ・桑崎 誠剛 ¹ (農研機構・2長野県・野菜花き試験場) 次世代シーケンサーを用いた長野県の広域コナガ殺虫剤抵抗性モニタリング	D215 ○真田 幸代 ¹ ・藤井 智久 ¹ (農研機構九州農研) 2018年と2019年のトビイロウカノ主要薬剤感受性動向	E215 ○藤原 亜希子 ^{1,2} ・田中 くるみ ^{1,3} ・小川 健司 ⁴ ・土田 努 ⁵ (群馬大学・食健康・2理研・CSRS・3群馬大学・理工学部・4日本大学・生物資源・5富山大学・学術研究室) タバココナジラミ内部共生細菌に着目した、TYLCSV媒介防除資材の開発に向けて
16:15	A216 ○中林 ゆい ¹ ・大島 一正 ¹ (京都府大・院生命環境) Contrasting population structures between a range expanding butterfly, <i>Arhopala japonica</i> (Lycaenidae), and its egg parasitoids	B216 ○岸 茂樹 ¹ (農研機構・農情研) 訪花昆虫のオスとメスにみられるネットワーク構造の違い 訪花昆虫のオスとメスにみられるネットワーク構造の違い	C216 ○山下 泉 ¹ (高知農技セ) ネダニモドキ属の一種 (<i>Sancassania</i> sp.) はニラに被害を発生させるか	D216 ○彌富 丈一郎 ¹ ・宮崎 仁実 ¹ ・阿部 新太郎 ¹ (JA全農 農業研究室) 新規ウンカ剤ピラキサルト TM がヒメトビウカの吸汁行動に及ぼす影響	E216 ○瀬戸 康平 ¹ ・内山 寛 ¹ ・土屋 徳司 ¹ ・西村 知良 ¹ (日大・生物資源) ウスチャデオキシイの幼虫発育と真菌類の関係
16:30	A217 ○JIAN, WEN ¹ (KYUSHU UNIVERSITY) Predation-risk experienced parents produce long-winged and agile offspring to improve offspring survival	B217 ○見上 孝 ¹ ・芳山 三喜雄 ² ・荻原 麻理 ² ・森本 信生 ² ・木村 澄 ² (生物めぐみ研究所・2農研機構 畜産研) セイヨウミツバチから採取した精液の常温保存法の検討	C217 ○新垣 則雄 ¹ ・砂川 博秋 ² (沖縄県農業研究センター・2沖縄県宮古島市西里) 宮古島の岬に生息するリュウキュウクロコガネ個体群は島中央部の個体群と比べて異時的出現・交尾時間帯を持つ	D217 ○鈴木 竜也 ¹ ・大和 誠司 ¹ (住友化学株式会社) 新規殺虫剤 オキサゾスルフィルに関する研究 (第1報) —作用機構—	E217 ○吉田 達也 ¹ ・内山 徹 ¹ (静岡農研センター) なげちゃの被覆栽培でカンザワハダニが多発するのか

F会場	G会場	H会場	I会場	J会場	
<p>F212 ○網野 海¹・松尾 隆嗣¹ (1東京大学大学院・農学生命科学研究科) 深層学習を用いたテナガショウジョウバエにおける縄張り行動の解析</p>	<p>G212 ○岩本 哲弥¹・溝部 信二¹ (1山口県農林総合技術センター) クリシギゾウムシに対する蒸熱処理の防除効果</p>	<p>H212 ○内田 一秀¹・綿打 享子¹・國友 義博¹ (1山梨県果樹試験場) クワコナカイガラムシに対するジノテフラン水溶剤樹幹塗布の効果と降雨の影響</p>	<p>I212 ○光永 貴之¹・長坂 幸吉¹ (1農研機構中央農研) アブラバチ類の二次寄生蜂 <i>Syrphophagus tachikawai</i> の寄主範囲と温度別増殖率</p>	<p>J212 ○柳川 綾¹・梶原 篤²・仲島 浩紀³・Desmond-Le Quemener Elie⁴・Steyer Jean-Philippe⁴・畑 俊充¹・吉村 剛¹・三谷 友彦¹ (1京都市大学生存圏研究所・2奈良教育大学・3京都工芸繊維大学・4フランス国立農業研究所・モンペリエ大学) シロアリをモデルとしたマイクロ波加熱処理照射条件検討</p>	15:15
<p>F213 ○渡 康彦¹・後藤 慎介²・宮崎 洋祐³・黒木 出¹・田中一裕⁴ (1芦屋大学・臨床教育・2大阪市立大学・院理・3芦屋大学・経営教育・4宮城学院女子大学・一般教育) キイロショウジョウバエの異なる温度周期下での羽化の同調</p>	<p>G213 ○佐藤 信輔¹・窪田 直也¹・小河原 孝司¹ (1茨城農総セ・園研) 氷感庫を用いた低温処理によるクリシギゾウムシ <i>Curculio sikkimensis</i> (コウチュウ目:ゾウムシ科) の防除効果</p>	<p>H213 ○軸丸 祥大¹ (1広島総研農技・果樹) 広島県内で確認されたクピアカスカシバ多発圃場の被害程度とその特徴</p>	<p>I213 ○村田 未果¹・小林 徹也²・瀬尾 茂美² (1農研機構 野花研・2農研機構 生物研) 誘導抵抗性物質、α-ヨノン はジャスモン酸非依存的にミカンキイロアザミウマに対する抵抗性を植物に付与する</p>	<p>J213 高田 愛弓¹・武田 直樹²・野山 晋平^{1,3}・山川 颯太¹・岡村 麻代¹・Ghazy Noureldin¹・Voigt Dagmar⁴・鈴木 文詞¹ (1農工大院・BASE・2農工大・農・3OATアグリオ(株)・4ドレスデン工科大・植物) サフオイル乳剤の残効性機構</p>	15:30
<p>F214 ○宮崎 洋祐¹・黒木 出²・田中一裕³・渡 康彦² (1芦屋大・経営教育・2芦屋大・臨床教育・3宮城学院女子大・一般教育) 「湿度(しつど)」の変化がタマネギバエの概日羽化リズムに与える影響</p>	<p>G214 ○竹原 剛史¹・黒木 修一¹・田中 崇²・池田 剛志² (1宮城県総合農業試験場・2日本液炭株式会社) 果菜類の栽培終了時処理を想定したMITCくん蒸剤の施設内全面処理による害虫類防除効果</p>	<p>H214 ○三代 浩二¹・岸本 英成¹・柳沼 勝彦¹・山村 光司²・加藤 真城³・吉田 昂樹⁴・笹脇 彰徳⁵・手柴 真弓⁶ (1農研機構果樹茶業研究部門・2農研機構農業環境変動センター・3岩手県農業研究センター・4福島県農業総合センター果樹研究所・5長野県果樹試験場・6福岡県農業総合試験場) 輸出想定圃地における防除圧と収穫後措置によるシンクイムシ類被害リスクの低減</p>	<p>I214 ○河村 俊和¹・谷崎 司¹・溝部 信二¹ (1山口県農林総合技術センター) 光反射資材による施設アスパラガスのネギアザミウマの物理的防除</p>	<p>J214 ○石川 博司¹・松崎 聖史¹ (1愛知県農業総合試験場) イチゴのハダニ類に対するマシン油乳剤と調合油乳剤の苗浸漬処理及び茎葉浸漬処理による防除効果</p>	15:45
<p>F215 ○西出 雄大¹ (1農研機構・生物機能) 野外における液性免疫が生存に与える影響</p>	<p>G215 ○横田 啓²・熊谷 初美²・佐々木 達史¹ (1岩手農研・2岩手県北農研) 春まきタマネギ栽培における殺虫剤と細菌防除剤が収量と腐敗に及ぼす影響</p>	<p>H215 ○降幡 駿介¹・岸本 英成¹・三代 浩二¹・外山 晶敏¹ (1農研機構果茶研) 果樹カメムシ類のモニタリングにおける、米国製クサガカメムシ合成集合フェロモンルアー3剤の有効性の比較</p>	<p>I215 ○安達 修平¹・富高 保弘¹・櫻井 民人² (1農研機構・九州沖縄農研・2農研機構・中央農研) キュウリにおけるミナミキイロアザミウマの発育特性および選好性に対するメロン黄化えそウイルスの影響</p>	<p>J215 ○井口 雅裕¹ (1和歌山農試) 気門封鎖型薬剤デンプン液剤の殺ダニ効果は、薬液の濡れ時間に影響される</p>	16:00
<p>F216 ○安部 淳¹・入谷 亮介²・土田 浩治³・上村 佳孝⁴・Stuart A. Wests⁵ (1明治学院大学・教養・2理研・数理創造プログラム・3岐阜大学・応用生物・4慶応大学・生物・5オックスフォード大学) LRE付きLMCモデルによる寄生バチ <i>Melittobia</i> の極端な雌偏向性比の検討</p>	<p>G216 ○城塚 可奈子¹・金子 修治¹・柴尾 学¹ (1大阪環水研) 露地ネギ圃場における赤色ネットおよび微生物農業によるネギアザミウマの防除</p>	<p>H216 ○岸本 英成¹・加藤 真城²・降幡 駿介¹・外山 晶敏¹ (1農研機構・果樹茶・2岩手農研セ) リンゴ園に発生するカブリダニ類の非選択性殺虫剤に対する感受性</p>	<p>I216 ○田中 彩友美¹・北村 登史雄¹・富高 保弘¹・安達 修平¹・水谷 信夫¹ (1農研機構・九州農研) 熊本県のトマトにおけるタバココナジラミの発生消長とTYLCV・ToCV保毒状況</p>	<p>J216 ○川田 千瑛¹・佃 晋太郎¹・中井 清裕² (1香川農試・2香川農業経営課) 高濃度炭酸ガス処理によるイチゴのハダニ類防除の検討</p>	16:15
<p>F217 ○山本 哲¹・菅原 道夫²・岡田 龍一²・池野 英利¹ (1兵庫県立大・人間環境・2神戸大・理・生物) ニホンミツバチにおける分蜂と女王パイピング発生の関係</p>	<p>G217 ○高木 素紀¹・上杉 龍士²・小河原 孝司¹ (1茨城農総セ園研・2農研機構東北農研) 形態とPCR-RFLPを利用したネギハモグリバエ <i>Liriomyza chinensis</i> 種内系統の診断法および茨城県内での発生状況</p>	<p>H217 ○舟山 健¹ (1秋田県果樹試験場) リンゴ園で殺ダニ剤散布は土着カブリダニ類の定着に影響するか</p>	<p>I217 ○大鷲 友多¹・安部 順一朗¹・西濱 健太郎²・星野 滋² (1農研機構西日本農研・2広島総研農技セ) 天敵温存植物と代替餌資材を導入した夏秋トマト栽培ハウスにおけるタバコカスミカメ個体数の推移</p>	<p>J217 ○大坂 龍¹・大谷 徹¹ (1千葉県農林総合研究センター) サンダーソニアを害するロビンネダニに対する各種薬剤の効果</p>	16:30

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
16:45	<p>A218 ○岡田 瀬礼奈¹・矢野 修一² (1京都大学農学部・2京都大学農学研究科) Spider mite eggs on webs remain less than those on the leaf surface after the storm</p>	<p>B218 ○荻原 麻理¹・芳山 三喜雄¹・森本 信生¹・木村 澄¹ (1農研機構 畜産研究部門) 日本に分布するミツバチヘギータダニの遺伝的解析</p>	<p>C218 ○徳田 誠¹・鈴木 義人²・Elsayed Ayman^{3,4}・松田 浩輝¹ (1佐賀大学・農学部・2茨城大学・農学部・3東京大学・4アレクサンドリア大学) 陸生節足動物に広範に存在する内生植物ホルモン：その進化的起源と機能の推定</p>	<p>D218 ○亀崎 将司¹ (1住友化学株式会社) 新規殺虫剤オキサゾスルフィルに関する研究 (第2報) ー作用特性ー</p>	<p>E218 ○本田 善之¹・岩本 哲弥¹ (1山口県農林総技セ) おとり植物クレオメを防除することでダイズカメムシ類の防除は可能か</p>
17:00	<p>A219 ○劉 家銘^{1,2}・松本 茂¹・戒能 洋一¹ (1筑波大学・生命環境・2農研機構・畜産研究部門) Positive response of female oriental fruit moths to pear shoot HIPVs</p>	<p>B219 ○佐々木 謙¹・原田 真理子^{1,2} (1玉川大学 農学部・2生物科学安全研究所) セイヨウミツバチ雌のカースト特異的な形質の潜在的な連続性</p>	<p>C219 ○成 耆鉉¹・松村 泰志²・大鳥 真紀²・工藤 真由²・畑 正哉²・渡邊 裕貴²・姜 時友² (1理研CPR・2山形大学) キイロシヨウジョウバエ雌性先熟 (Protogyny) 表現型の分子機構の解明</p>	<p>D219 ○坂本 えみ子¹・所 尚美¹ (1住友化学株式会社) 新規殺虫剤オキサゾスルフィルに関する研究 (第3報) ー水稻育苗箱施用剤の防除効果ー</p>	<p>E219 ○上里 卓己¹・秋田 愛子¹ (1沖縄県農業研究センター) 沖縄におけるアザミウマ捕食性天敵カメムシ類に適した天敵温存植物の選定 (春秋期) パート2</p>

F会場	G会場	H会場	I会場	J会場	
<p>F218 ○坂田 大介¹・武田 竜典¹・水野 尊文²・秋野 順治¹(¹京都工芸繊維大学 応用生物・²西双版納熱帯植物園) 卵に松脂を塗り付けるカメムシヨコヅナサシガメの産卵行動一</p>	<p>G218 ○浦入 千宗¹・藤戸 聡史¹・山田 朋宏¹・豊島 真吾¹(¹農研機構野花研) ネギハモグリバエ強度抵抗性系統に含まれる殺卵活性成分の同定</p>	<p>H218 ○夔島 萌子¹・笹脇 彰徳¹(¹長野県果樹試験場) 長野県の果樹園におけるアングソニカブリダニの発生</p>	<p>I218 ○斉藤 千温¹・土井 誠¹・吉崎 涼花¹・片山 晴喜¹(¹静岡農林技研) 長段どりトマトでの、タバコカスミカメの放飼時期の違いによるタバコカスミカメのトマト上への定着とタバココナジラミの防除効果</p>	<p>J218 ○神山 光子¹・鍵和田 聡²・上遠野 富士夫³・千秋 祐也⁴・柳澤 広宣⁵・久保田 健嗣⁵(¹熊本県農業研究センター果樹研究所・²法政大学生命科学部・³法政大学植物医学センター・⁴農研機構果樹茶業研究部門・⁵農研機構中央農業研究センター) ニセナシサビダニからのリアルタイムPCRによるエマラウイルスの検出</p>	16:45
<p>F219 ○佐久間 知佐子^{1,2}・嘉糠 洋陸^{1,2}(¹慈恵医大・熱帯医学・²慈恵医大・衛生動物学研究セ) 蚊の吸血を正と負に制御する味覚受容機構の解明</p>	<p>G219 ○大林 隆司¹・加藤 綾奈¹・猿渡 信昭²・八瀬 順也³(¹都農総研・生産環境科・²三京化成工業株式会社・³兵庫農水技総セ) 赤銀色マルチはワケネギのアザミウマ類を減らすか? ~各種市販マルチとの比較~</p>	<p>H219 ○外山 晶敏¹(¹農研機構果樹茶部門) 果樹におけるミヤコカブリダニ製剤の放出・拡散特性と効率的設置</p>	<p>I219 ○中野 亮平^{1,2}・守田 大樹²・岡本 雄太²・藤原 彩夏²・安達 鉄矢³・土井 誠¹・石川 隆輔¹・片山 晴喜¹・日本 典秀⁴(¹静岡農林技研・²宮崎大学・農・³宮崎大学・TT・⁴京都大学・院・農) 日本産トマト3品種に対するタバコカスミカメの加害</p>	<p>J219 ○久保田 健嗣¹・神山 光子²・柳澤 広宣¹・鍵和田 聡³・鈴木 良地⁴(¹農研機構中央農業研究センター・²熊本県農業研究センター果樹研究所・³法政大学生命科学部・⁴愛知県農業総合試験場) シソサビダニ (<i>Shevtchenkella</i> sp.) によるシソモザイクウイルスの媒介特性および虫体内ウイルス量評価法の構築</p>	17:00

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
09:00	A301 ○日下部 良康 ¹ ・井上 大成 ² (1横浜市・2森林総研・多摩) オオトラカミキリの蛹室形成パターンと樹脂対策および野外生木への幼虫移植の経過	B301 ○渡邊 智大 ¹ ・佐々木 謙 ^{1,2} (1玉川大・院・農・2玉川大・農) セイヨウミツバチ雄における加齢に伴う脳内ドーパミン増加の生理機構	C301 ○渡部 賢司 ¹ ・高須 陽子 ¹ ・和田 早苗 ¹ ・飯塚 哲也 ¹ ・粕 淵 真由 ² ・王 永浩 ² ・佐藤 令一 ² ・宮本 和久 ¹ (1農研機構・生物研・2東京農工大・BASE) ゲノム編集カイコを用いたCry1A受容体機能解析	D301 ○高木 正見 ¹ (1九州大学大学院・農学研究院) わが国におけるアルファルファタコゾウムシの生物的防除の歴史	E301 ○林川 修二 ¹ ・濱島 朗子 ¹ ・里 昭平 ² ・山口 卓宏 ¹ (1鹿児島県農業開発総合センター・2鹿児島県立農業大学校) 奄美大島におけるイネヨトウの幼虫寄生蜂の種と寄生率
09:15	A302 ○檜垣 守男 ¹ (1農研機構・果樹茶部門) ゴマダラカミキリの幼虫期間および樹木からの成虫脱出時期の地理的変異	B302 ○原野 健一 ¹ (1玉川大学・ミツバチ科学研究センター) ミツバチの採餌蜂が巣から持ち出す花蜜：濃度選択的利用による採餌の促進	C302 ○神谷 克巳 ¹ (1岐阜県農業技術センター) トマト葉面における昆虫寄生糸状菌に対する葉面微生物の影響	D302 ○矢野 栄二 ¹ ・Lia Hemerik ² (1京都大学生態学研究センター・2Wageningen University) 温室における放飼増強法の天敵の放飼戦略の評価	E302 ○岩本 啓秀 ¹ ・高橋 竜太 ¹ ・今井 利宏 ¹ (1日本たばこ産業株式会社) ノシメダラメイガは下方から光源に接近する
09:30	A303 ○石栗 陽一 ^{1,3} ・大畑 勇統 ² ・吉永 直子 ² ・森 直樹 ² ・戒能 洋一 ³ (1青森産技りんご研・2京大院農・3筑波大生命環境) モモンクイガイ幼虫の食入密度の違いとリンゴ果実の防御反応	B303 ○楠目 晃大 ¹ ・藍 浩之 ² (1福岡大学大学院 理学研究科 地球圏科学専攻・2福岡大学 理学部 地球圏科学科) ミツバチの尻振りダンスに対する追従様式の解析	C303 ○三浦 健 ¹ ・澤田 光希 ¹ ・佐野 拓真 ¹ ・花川 賢人 ¹ ・Paratthakorn Ongsirimongkol ¹ ・Patchara Sirasoonthorn ¹ ・水口 智江可 ¹ (1名大院・害虫制御学) 昆虫上皮の機能と抗病原糸状菌防御	D303 ○長坂 幸吉 ¹ ・杜 建明 ² ・日本 典秀 ³ ・守屋 成一 ¹ ・後藤 千枝 ¹ ・櫻井 民人 ¹ ・山内 智史 ¹ ・澤田 守 ¹ (1農研機構中央農研・2(有)ユニオンファーム・3農研機構中央農研, 現京都大・院・農) 施設ミニトマト有機栽培圃場における10年間の主要害虫の年次変動と管理対策	E303 ○安藤 さやか ¹ ・本間 淳 ^{1,2,3} (1沖縄県病害虫防除技術センター・2琉球産経・3琉大・農) ウリミバエ不妊虫放飼頭数、半数に減らしても大丈夫?
09:45	A304 ○澤村 信生 ¹ ・角 菜津子 ¹ (1島根県農業技術センター) マツモトコナカイガラムシの誘殺時刻と交尾時刻について	B304 ○久保 良平 ¹ ・小野 正人 ^{1,2} (1玉川大・ミツバチ科学・2玉川大・農・昆虫機能) 希少種ノサツブマルハナバチ <i>Bombus floricagus</i> の訪花植物相と室内飼育の試み	C304 ○佐藤 大樹 ¹ (1森林総合研究所 森林昆虫研究領域) 野外のサナギタケ子実体形成に与える気温の影響	D304 ○佐藤 翠音 ¹ ・大野 啓太郎 ¹ ・田中 せつら ¹ ・甲斐 拓海 ¹ ・内野 祐樹 ¹ ・松岡 俊治 ¹ ・糸山 享 ¹ (1明治大・農) ツヤクシオオゴミムシダマシ蛹を用いたサビダラオオホソカタムシ幼虫の飼育	E304 ○小原 慎司 ¹ ・手塚 俊行 ¹ (1株式会社アグリ総研) 送粉昆虫巣箱における冷却方法の開発
10:00	A305 ○永井 一哉 ¹ ・那須 英夫 ¹ (1日植防岡山) 日植防岡山試験地において特徴的に発生する水稲、大豆の害虫	B305 ○吉田 昂樹 ¹ ・中村 傑 ¹ ・高岩 和史 ¹ (1福島農総セ果) 福島市の市街地と山間地に存在するリンゴ園における訪花昆虫相の変遷	C305 ○稲元 哲朗 ^{1,2} ・高橋 純一 ² (1京都府農村振興課・2京産大・生命科学) チョーク病に感染したセイヨウミツバチワーカー蜂児の病理組織化学的観察	D305 ○世古 智一 ¹ (1農研機構中央農研) タイリクヒメハナカメムシにおいて、歩行活動量に対する人為選抜が生存、発育、繁殖に及ぼす影響の検証	E305 ○前田 太郎 ¹ ・江畑 真美 ² (1農研機構 生物研・2和歌山果樹試うめ研) ニホンミツバチはセイヨウミツバチより低温で動くか?
10:15	A306 ○橋 真一郎 ^{1,2} ・松崎 真二 ¹ ・田中 昌子 ^{3,4} ・塩田 正之 ³ ・元岡 大祐 ⁵ ・中村 昇太 ⁵ ・後藤 慎介 ¹ (1大阪市大・院理・2千葉大・院医・3大阪市大・院医・4早稲田大・高等研・5阪大・微研) ホソヘリカメムシの越冬時に誘導されるオートファジー関連タンパク質GABARAP	B306 ○三友 光 ¹ ・小野 正人 ¹ (1玉川大・農・昆虫機能) キアシナガバチ創設女王の単独営巣期におけるタスク分配と防衛に関する研究	C306 太田 理絵 ¹ ・Gasmi Laila ¹ ・井上 真紀 ¹ ・仲井 まどか ¹ (1農工大・農) エントモボックスウイルス体内で寄生蜂が致死するメカニズムの解明	D306 ○Hatt, Severin ¹ ・Osawa, Naoya ¹ (1Kyoto University) The role of <i>akashiho</i> (<i>Perilla frutescens</i> var. <i>crispa</i>) flowers on fitness traits of the ladybird beetle <i>Harmonia axyridis</i>	E306 ○光畑 雅宏 ¹ ・眞壁 敏明 ² ・浅田 真一 ³ (1アリスタライフサイエンス・2神奈川農農技・3玉川大学・農学部) 在来種クロマルハナバチによる日本ナシの受粉効果 (本報) -送粉者が担う役割の新たな可能性-

F会場	G会場	H会場	I会場	J会場	
F301 ○遠藤 信幸 ¹ ・本田 善之 ² ・岩本 哲弥 ² ・弘中 満太郎 ³ (¹ 農研機構・中央農研・ ² 山口農林総合・ ³ 石川県立大) 緑色光と紫外光の混色光源に対する反応性は昆虫種により異なる	G301 ○加嶋 崇之 ¹ ・森戸 梓 ¹ ・森 光太郎 ¹ ・佐野 真紀子 ¹ ・坂井 優 ⁴ ・北村 登史雄 ² ・大西 純 ² ・有本 裕 ³ (¹ 石原産業・ ² 農研機構・ ³ 理研・ ⁴ 石原バイオ) ベミデタッチ・乳剤のトマト生産現場での防除効果	H301 ○土田 祐大 ¹ ・増井 伸一 ¹ (¹ 静岡県農林技術研究所果樹研究センター) 2種広食性カブリダニによるニホンナシのカンザワハダニ抑制効果	I301 ○香川 清彦 ¹ (¹ 宇都宮大学・農学部) 日本におけるカナビキソウに寄生するアブラムシに関する知見の続報	J301 ○北林 聡 ¹ ・岡田 浩明 ² ・金子 政夫 ¹ (¹ 長野県野菜花き試験場・ ² 農研機構中央農研) アブラナ属4品目におけるテンサイシストセンチュウ被害の品目・品種間差(予報)	09:00
F302 ○中野 亮 ¹ (¹ 農研機構・果樹茶部門) ヤガ類の超音波を用いたコミュニケーションと捕食者回避戦略	G302 ○北村 登史雄 ¹ ・大西 純 ² ・加嶋 崇之 ³ ・田中 彩友美 ¹ ・水谷 信夫 ¹ (¹ 農研機構九州沖縄農業研究センター・ ² 農研機構中央農業研究センター・ ³ 石原産業株式会社) 媒介様式が異なるコナジラミ類媒介性ウイルスに対するアセチル化グリセリドの媒介抑制効果の検証	H302 ○角 菜津子 ¹ ・澤村 信生 ¹ ・山本 隼佑 ¹ (¹ 島根農技セ) 施設ブドウにおける幹元の環境がハダニ類とカブリダニ類へ及ぼす影響について	I302 ○湯川 淳一 ¹ ・キム ワンギユウ ² ・橋本 直樹 ³ ・角野 晶大 ⁴ ・岩崎 暁生 ³ (¹ 九州大学・ ² 高麗大・ ³ 道総研中央農試・ ⁴ 道総研道南農試) 北海道で発見されたトマトの新害虫、トマトウロコタマバエの同定結果とその由来	J302 ○奈良部 孝 ¹ ・伊藤 賢治 ¹ ・小野寺 鶴将 ² (¹ 農研機構北農研・ ² 道総研北見農試) ジャガイモシストセンチュウ類発生調査のための土壌サンプリング法の比較	09:15
F303 ○菅原 亮平 ¹ ・田中 誠二 ² ・塩月 孝博 ³ ・土屋 渉 ⁴ ・山崎 俊正 ⁴ (¹ 弘前大・農学生命・ ² 前農生研・ ³ 島根大・生物資源・ ⁴ 農研機構) サバクトビバッタの老齢幼虫に黄化を誘導するタンパク質YPTとカロチノイド	G303 ○上宮 健吉 ¹ ・加嶋 崇之 ¹ ・森戸 梓 ¹ ・佐野 真喜子 ¹ ・有本 裕 ² (¹ 石原産業株式会社・ ² 理研) ベミデタッチ®乳剤(アセチル化グリセリド)によるチャトゲコナジラミの産卵忌避効果	H303 ○堀川 拓未 ¹ ・横山 泰之 ¹ (¹ 新潟園芸研) ニセナシサビダニ越冬虫の離脱時期調査におけるテートラップ法の適用	I303 ○坂巻 祥孝 ¹ ・津田 勝男 ¹ (¹ 鹿児島大学農学部害虫学研究室) 2015年以降に採集した奄美群島産ゴマダラカミキリ類の核およびミトコンドリア遺伝子の島間比較	J303 ○酒井 啓充 ¹ ・串田 篤彦 ¹ (¹ 農研機構・北農研) シストセンチュウ類の日本における発生状況とPCR-RFLPプロファイルの再整理	09:30
F304 ○神村 学 ¹ ・伊藤 由果 ¹ ・和泉 隆誠 ¹ ・瀬筒 秀樹 ¹ (¹ 農研機構 生物研) 様々な昆虫の表皮メラニンの構造色増強機能-黒くなることでより鮮やかに-	G304 ○萬屋 宏 ¹ ・加嶋 崇之 ² ・須藤 正彬 ¹ ・佐藤 安志 ¹ (¹ 農研機構 果樹茶業研究部門・ ² 石原産業株式会社) アセチル化グリセリドによるチャノミドリヒメヨコバイの防除効果	H304 ○眞壁 敏明 ¹ ・光畑 雅宏 ² ・阿部 直樹 ³ (¹ 神奈川農技(横浜川崎)・ ² UPL・ ³ 全農神奈川) ミヤコカブリダニ製剤放飼ナシ園における黄色LED照射による飛来性害虫の被害軽減効果とスワルスキーカブリダニのニセナシサビダニの捕食効果について	I304 ○田中 絵里 ¹ ・綿引 大祐 ² ・吉松 慎一 ¹ ・渡久地 彩子 ³ (¹ 農研機構 農環研・ ² 北海道栗山町教育委員会・ ³ 八重山農水振興セ) 石垣島で大発生した日本初記録の新害虫タイリクマツカレハ(チョウ目:カレハガ科)	J304 ○本田 洋 ¹ ・橋本 貴美子 ¹ (¹ 東農大分子生命化) 関東地方における餌捕獲によるタケノモグリハナバエ(モグリハナバエ科)の発生と宿主範囲の調査	09:45
F305 ○董 笠 ¹ ・村松 伸樹 ¹ ・沼田 英治 ¹ ・伊藤 千紘 ¹ (¹ 京大) ホソヘリカメムシ変態時の <i>Krüppel homolog 1</i> 遺伝子の役割	G305 ○櫻井 民人 ¹ ・千秋 祐也 ² ・久保田 健嗣 ¹ ・加嶋 崇之 ³ (¹ 農研機構 中央農業研究センター・ ² 国研) 農研機構 果樹茶業研究部門・ ³ 石原産業株式会社) モモアカアブラムシのウメ輪紋ウイルス媒介にアセチル化グリセリドが与える影響	H305 ○岩瀬 亮三郎 ¹ ・小俣 良介 ¹ (¹ 埼玉農技研) 埼玉県北部におけるネギネクロバネキノコバエの発生消長	I305 ○綿引 大祐 ¹ ・田中 絵里 ² ・吉松 慎一 ² (¹ 北海道栗山町教育委員会・ ² 農研機構 農環研) 著名害虫ツガカレハ・マツカレハ・オキナワマツカレハの形態学的識別法(チョウ目:カレハガ科)	J305 ○西田 律夫 ¹ ・眞岡 孝至 ² ・河野 伸二 ³ ・比嘉 真太 ³ ・親富祖 明 ³ ・松山 隆志 ³ ・小野 肇 ⁴ (¹ 京都市・ ² 生産開発科学研・ ³ 沖縄県農研センター・ ⁴ 京大院農) ナスミバエの新規雄誘引物質 dehydrotheaspiron	10:00
F306 ○粥川 琢己 ¹ ・長峯 啓佑 ¹ ・古田 賢次郎 ¹ ・小林 功 ¹ ・松尾 隆嗣 ² (¹ 農研機構・生物機能・ ² 東大院・農学生命) JH生合成酵素遺伝子群の転写を制御するmaster regulatorの単離と機能解析	G306 ○上室 剛 ¹ (¹ 鹿児島農総セ大) ゴボウヒゲナガアブラムシの発育・増殖特性と薬剤感受性	H306 ○有本 誠 ¹ ・日本 典秀 ^{1,3} ・小俣 良介 ² ・岩瀬 亮三郎 ² (¹ 農研機構 中央農研・ ² 埼玉農技研・ ³ 現在:京大院農) 同所的に発生するクロバネキノコバエ科多数頭からのネギネクロバネキノコバエの検出	I306 ○奥谷 恭代 ¹ ・小椋 真実 ¹ (¹ 鳥取県農業試験場) 水稻高密度播種育苗栽培における育苗箱施用剤の移植時側条施用のヒメトビウンカに対する防除効果	J306 ○Ross Socheat ¹ ・松山 茂 ¹ ・戒能 洋一 ¹ (¹ 筑波大・生命環境) Deterrent effects of volatiles from intact plants on host searching of a parasitoid wasp, <i>Cotesia kariyai</i>	10:15

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
10:30	A307 ○中原 重仁 ¹ ・佐々木 薫 ¹ ・肥後 雄一 ¹ ・北田 真之 ² ・榎本 竜二 ² (1横浜植物防疫所・2門司植物防疫所) カボチャミバエの生態に関する知見とモニタリング法の検討	B307 ○上野 高敏 ¹ (九州大学・農学研究院・生物的防除研究施設) 外来種ツマアカスズメバチと土着キイロスズメバチのミツバチをめぐる関係	C307 島田 裕子 ^{1,2} ・上山 拓己 ³ ・片山 南美 ³ ・田中 裕之 ⁴ ・豊田 敦 ⁶ ・伊藤 武彦 ⁴ ・丹羽 隆介 ¹ (筑波大・TARAセ・2JST・さきがけ・3筑波大・生命環境・4東工大・生命理工・5遺伝研・比較ゲノム解析) ショウジョウバエを宿主とする内部寄生蜂 <i>Asobara japonica</i> のゲノムシーケンシング	D307 ○Wari, David ¹ ・Takagi, Motonori ¹ ・Tezuka, Toshiyuki ² ・Shimoda, Masami ³ ・Ogawara, Takashi ¹ (1Ibaraki Agri. Center・2Agri-Soken Inc.・3NARO) Intergration of <i>Nesidiocoris tenuis</i> with banker plants and natural enemy attraction-LEDs to manage <i>Bemisia tabaci</i> in tomato cultivation	E307 ○江川 彩子 ¹ ・手塚 俊行 ¹ ・小原 慎司 ¹ ・伊藤 健司 ¹ (1株式会社アグリ総研) 匂い物質を用いたクロマルハナバチの誘導
10:45	A308 ○野間 健吾 ¹ ・西村 知良 ¹ (1日大・生物資源) ジンガサハムシの体サイズと幼虫期間に及ぼす温度と光周期の影響	B308 ○松浦 健二 ¹ ・伊東 啓 ² ・小林 和也 ³ ・大崎 遥 ⁴ ・吉村 仁 ⁵ (1京大院・農・昆虫生態・2長崎大・熱医研・3京大・フィールド研・4九大院・システム生命・5静大院・創造科技) 真社会性の正体：性拮抗性の産物としてのワーカー	C308 ○高橋 一男 ¹ ・村本 大輝 ¹ (1岡山大学大学院環境生命科学研究科) RNAiによるショウジョウバエの寄生蜂抵抗性遺伝子探索	D308 ○金子 修治 ¹ ・城塚 可奈子 ¹ ・柴尾 学 ¹ ・磯部 武志 ¹ (1大阪環水研) 施設ブドウにおけるミヤコバンカーを利用したハダニ類防除の検討	E308 平岩 将良 ¹ ・岸 茂樹 ² ・前田 太郎 ¹ (1農研機構・生物研・2農研機構・農情研) 花の混植による作物への送粉者誘引効果の検証
11:00	A309 ○松井 悠樹 ¹ ・青木 一幸 ² ・中 秀司 ³ (1鳥取大学大学院連合農学研究科・2日本蝶類学会・3鳥取大学農学部) 日本未記録種 <i>Orphanostigma abruptalis</i> (鱗翅目: ツトガ科) の石垣島における発生	B309 ○下地 博之 ¹ ・小川 真也 ¹ ・矢口 甫 ^{1,2} ・宮崎 智史 ³ ・前川 清人 ² ・北條 賢 ¹ (1関西学院大学・2富山大学・3玉川大学) 日本産トゲオオハリアリにおけるワーカー間分業と <i>Vg-like</i> 遺伝子の関係	C309 ○坂本 卓磨 ¹ ・坊農 秀雅 ² ・天竺桂 弘子 ¹ ・岩淵 喜久男 ¹ (1東京農工大学大学院・2DBCLS) 多胚性寄生蜂における寄主胚侵入に関する分子メカニズムの探索	D309 ○伊藤 健司 ¹ ・手塚 俊行 ¹ ・小原 慎司 ¹ ・長坂 幸吉 ² ・八板 理 ³ ・関根 崇行 ⁴ ・鍋谷 霞 ⁵ ・野村 雄太 ⁶ (1(株)アグリ総研・2農研機構中央農研・3栃木農試・4宮城農園研・5福岡農林試・6大分農林水研指) 次世代型バンカー資材キットを使ったアブラムシ防除方法	E309 ○大矢 武志 ¹ ・腰山 雅巳 ² ・安部 洋 ³ (1神奈川農技センター・2日本ゼオン・3理研BRC) プロヒドロジャスモン処理したトマト上でのスワルスキーカブリダニの繁殖
11:15	A310 ○田中 一裕 ¹ ・谷山 克也 ² (1宮城学院女大 一般教育・2東北大院 農) エンマコオロギの雌性先熟とその光周期調節	B310 ○辻 和希 ¹ ・Win Aye Thanda ¹ ・土畑 重人 ² (1琉球大学・農学部・2京都大学・院・農学研究科) 多巣性アリにおける巣間分業 (予報)	C310 ○保原 佳明 ¹ ・塚田 森生 ¹ (1三重大学) アワダチソウゲンバエの卵寄生蜂 <i>Anagrus virginiae</i> の異なる寄主日齢における寄生・発育特性	D310 ○杖田 浩二 ¹ (1岐阜県農業技術センター) 充電式プロアを用いた <i>Beauveria bassiana</i> 水和剤の風媒処理方法の検討	E310 ○CORNETTE Richard ¹ ・斎藤 陽子 ¹ ・片山 玲大 ² (1農研機構 生物機能利用研究部門・2東京大学 大学院新領域先端生命科学専攻) ネムリユスリカの飼育方法の改良に関する研究
11:30	A311 ○宇高 寛子 ¹ (1京都大学大学院・理学研究科) 外来種マダラコウラナメクジの分布解明におけるクラウドサイエンスの成果と課題	B311 ○三高 雄希 ¹ ・松山 茂 ² ・水元 惟暁 ³ ・松浦 健二 ⁴ ・秋野 順治 ¹ (1京工繊大・2筑波大・3アリゾナ州立大・4京都大) シロアリの職蟻を誘引・拘束させる集合フェロモンの同定	C311 ○砂村 栄力 ¹ ・田村 繁明 ¹ ・浦野 忠久 ¹ ・加賀谷 悦子 ¹ (1森林総研) 日本在来アリ類による侵略的外来種クビアカツヤカミキリの捕食	D311 ○荒川 良 ¹ ・和田 結衣 ¹ ・田中 結菜 ¹ ・濱口 直也 ¹ ・鈴木 紀之 ¹ (1高知大学・農林海洋科学部) メスグロハナレメイバエの生物的防除資材としての利用方法	E311 ○片岡 孝介 ¹ ・嶺井 隆平 ² ・井手 圭吾 ^{3,1} ・小倉 淳 ² ・竹山 春子 ^{1,3} ・竹田 真木生 ⁴ ・鈴木 丈詞 ⁵ ・由良 敬 ^{1,7,6} ・朝日 透 ¹ (1早稲田大・先進理工・2長浜バイオ大・バイオサイエンス・3産総研・CBBDOIL・4神戸大・農院・5農工大・BASE・6お茶の水女子大・人間文化創成科学・7お茶の水女子大・文理融合AIデータサイエンス) タイワンエンマコオロギのゲノム全塩基配列解読：大量生産に向けた高効率品種改良技術の幕開け

F会場	G会場	H会場	I会場	J会場	
F307 ○大門 高明 ¹ ・山本 学 ¹ (京都大学大学院農学研究科) <i>Moltinism</i> 遺伝子によるカイコの幼虫脱皮回数制御機構	G307 ○吉原 大介 ¹ ・務川 重之 ¹ (クミアイ化学工業(株)) ピリフルキナゾン(コルト)に関する研究(第7報)ーモモアカアブラムシに対する吸汁阻害およびウイルス媒介抑制効果ー	H307 ○小俣 良介 ¹ ・岩瀬 亮三郎 ¹ ・渡辺 俊朗 ¹ (埼玉県農業技術研究センター) ネギネクロバネキノコバエ (<i>Bradysia odoriphaga</i>) を捕食するハネカクシ1種の捕食能力	I307 ○清水 信孝 ¹ (福岡県農林業総合試験場) 無人マルチローターを用いたイネウンカ類の防除効果	J307 ○与謝野 舜 ¹ ・堀 雅敏 ¹ (東北大院農) イチゴハムシにおける跗節による味認識の雌雄差に関する研究	10:30
F308 ○乾 智洋 ¹ ・山下 大志 ¹ ・粥川 琢巳 ² ・大門 高明 ¹ (京大院・農・ ² 農研機構・生物機能) プロモーターに着目した蛹変態の鍵遺伝子 <i>Broad-Complex</i> のカイコにおける発現解析	G308 ○小笠原 宏実 ¹ ・船田 剛玄 ¹ ・林 敬介 ¹ (シンジェンタジャパン) テフルトリン0.5%粒剤(フォース [®] 粒剤)のダイコン株元散布によるキスジノミハムシに対する防除効果と作用性	H308 ○石原 由紀 ¹ ・田上 陽介 ¹ (静岡大学農学部) ネギネクロバネキノコバエとチバクローバネキノコバエの捕食関係	I308 ○石島 力 ¹ ・平江 雅宏 ¹ (農研機構中央農業研究センター) 茨城県南部の水田におけるイネカメムシの発生状況	J308 ○深谷 緑 ^{1,2} ・地崎 萌 ¹ ・草木 昇 ¹ ・山中 康如 ¹ ・岩田 隆太郎 ¹ (日本大学・生物資源・ ² 順天堂大学・医) イタドリから発生したゴマダラカミキリ成虫の配偶定位における多種情報利用	10:45
F309 ○小野 肇 ^{1,5} ・豊福 美和子 ¹ ・藤永 大輝 ² ・稲葉 和恵 ³ ・船橋 智輝 ¹ ・藤川 雄太 ⁴ ・井上 英史 ⁴ ・片岡 宏誌 ² ・丹羽 隆介 ^{3,5} (京大院・農・ ² 東大・新領域・ ³ 筑波大・生命環境・ ⁴ 東京薬大・生命・ ⁵ 筑波大・TARA) 植物トリテルペノイド cucurbitacin B によるエクダイソン合成の阻害	G309 ○新藤 潤一 ¹ ・小笠原 宏実 ² ・船田 剛玄 ² (青森県産技・野菜研・ ² シンジェンタ) 夏播きダイコンのキスジノミハムシに対するテフルトリン粒剤の生育期株元散布を活用した防除体系の効果	H309 ○佐藤 安志 ¹ ・須藤 正彬 ¹ ・萬屋 宏 ¹ (農研機構・果茶研・金谷) クワシロカイガラムシ散水防除のための発生予察法	I309 ○川端 泉穂 ¹ ・小野 亨 ¹ ・横堀 亜弥 ¹ (宮城県古川農業試験場) 宮城県におけるクモヘリカメムシの分布域の解析	J309 ○和島 沙季 ¹ ・新垣 則雄 ² ・若村 定男 ¹ (京都先端大・ ² 沖縄県農業研究センター) ボウラン花の受粉後のリュウキュウツヤハナムグリの誘引と誘引物質量的変化について	11:00
F310 ○松村 崇志 ^{1,2} ・早川 洋一 ^{1,2} (佐賀大学農学部・ ² 鹿児島大学連合農学研究科) ストレス応答性プロテアーゼ <i>Phaedra1</i> の発現機構と生理機能	G310 ○安台 梨乃 ¹ ・松原 晶 ¹ ・Chin-Cheng Yang ² (アース製薬株式会社・ ² 京都大学生存圏研究所) Effects of three types of ant bait on the invasive fire ants in the field	H310 ○大野 豪 ¹ ・前藤 薫 ² ・本間 淳 ³ (沖縄病害虫防除セ・ ² 神戸大・農学・ ³ 琉球産経(株)) 害虫ミバエ類の根絶・侵入は、八重山群島のミバエ寄生蜂相(コマユバチ科)に影響した?	I310 ○堀越 亮 ¹ ・橋田 繁輝 ¹ ・小野崎 保道 ¹ ・武内 晴香 ¹ ・三富 正明 ¹ ・利部 伸三 ² (Meiji Seikaファルマ株式会社・ ² 岐阜大学) 新規殺虫剤フルピリミンに関する研究(第一報)	J310 ○大村 尚 ^{1,2,3} ・吉森 健人 ² ・奥田 知佳 ³ ・太田 伸二 ^{1,2,3} (広島大・院・統合生命・ ² 広島大・院・生物圏・ ³ 広島大・生物生産) キタキチョウ成虫の前翅で見つかった雄特異的成分の構造・動態・機能	11:15
F311 ○萩原 翠唯那 ¹ ・相垣 敏郎 ¹ ・朝野 維起 ¹ (首都大・院理・生命科学) 弾性タンパク質をコードするレジリン遺伝子の機能解析	G311 ○清水 優子 ¹ ・守屋 伸生 ¹ ・謝花 治 ¹ ・松村 まさと ¹ (沖縄県農業研究センター名護支所) マンゴー葉に寄生するマンゴーハフクレタマバエの被害と各種薬剤の殺虫効果	H311 ○福澤 麻衣 ¹ ・松原 成隆 ¹ ・島内 円夏 ¹ ・直井 敦子 ¹ ・大林 崇 ¹ ・野村 路一 ¹ (三井化学アグロ(株) 農業化学研究所) 新規有効成分テネベナル [®] の農業用途における殺虫特性	I311 ○武内 晴香 ¹ ・小野崎 保道 ¹ ・堀越 亮 ¹ ・静谷 成晃 ¹ ・落合 和子 ¹ ・佐藤 篤志 ¹ ・寺岡 豪 ¹ (Meiji Seikaファルマ株式会社) 新規殺虫剤フルピリミンに関する研究(第二報)ー水稲害虫に対する有効性ー	11:30	